

2025年度「書物との出会い イ（近代ヨーロッパと現代）」リーディングリスト

*各項目に含まれる内容 (1) 書誌情報 / (2) その本が関連する学問領域 / (3) キーワード : その本が関連するテーマなど / (4) 本の難易度 : 数が大きいほど難易度が高い / (5) 推薦した教員のコメント / (6) 推薦者の名前、所属

- (1) イマニュエル・ウォーラーステイン (2022) 『史的システムとしての資本主義』(訳) 川北稔、岩波文庫、ISBN : 9784003840016
- (2) 学問領域 : 経済学、社会学、歴史学
- (3) キーワード : 近代世界システム、資本主義的世界経済、万物の商品化、半プロレタリア、反システム運動
- (4) 難易度 : 2
- (5) 世界システム論の提唱者であるウォーラーステインが、その理論的枠組みを分かりやすく解説した好著。本書では、資本主義が複数の国民経済を包含する世界経済としてのみ成立するという独自の視点から、16世紀以降の近現代史を鮮やかに描き出すとともに、その行く末についても展望している。
- (6) 推薦者 : 沖公祐 (経済学部)

- (1) 植村邦彦 (2019) 『隠された奴隷制』集英社新書、ISBN : 9784087210835
- (2) 学問領域 : 哲学、社会思想
- (3) キーワード : 資本主義、奴隷制、植民地、自由、労働者
- (4) 難易度 : 2
- (5) 資本主義は、自由な個人を前提とする社会システムとされる。一方、奴隷制は人間を支配し、その自由を奪うものであり、両者は対極的なものに見える。本書は近代の代表的な社会思想を検討しながら、この通念に疑問を投げかけ、資本主義と奴隷制の関係を改めて問い直す。
- (6) 推薦者 : 沖公祐 (経済学部)

- (1) 沖公祐 (2019) 『「富」なき時代の資本主義—マルクス『資本論』を読み直す』現代書館、ISBN : 9784768410141
- (2) 学問領域 : 経済学、社会思想、現代資本主義
- (3) キーワード : 富、貨幣、労働、グローバリゼーション
- (4) 難易度 : 2
- (5) マルクスの古典的著作『資本論』を読み直しながら、現代資本主義が直面する構造的な問題を分析し、その行方を考察する。本書は、莫大な富を生み出してきた資本主義というシステムが機能不全を起こしている今こそ、その本質を理解することの重要性を説く。
- (6) 推薦者 : 沖公祐 (経済学部)

- (1) 御子柴義之(2015)『自分で考える勇気 カント哲学入門』、岩波ジュニア新書、ISBN:9784005007981
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード：理性、批判、自律、啓蒙
- (4) 難易度：1
- (5) 「カントの原典いきなり挑戦するのはちょっと…」と思っている人にまず読んでほしい一冊。身近な出来事を手掛かりにカント哲学のエッセンスと「自分で考えること」の大切さを教えてくれる。
- (6) 推薦者：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

- (1) イマヌエル・カント(1985)『永遠平和のために』(訳) 宇都宮芳明、岩波文庫、ISBN:9784003362594
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード：平和、歴史、理想
- (4) 難易度：2
- (5) 平和論の古典中の古典。何のために「永遠平和」(＝一切の敵意の解消)という理念を掲げる必要があるのか、丁寧に論じており学ぶところが多い。「平和主義なんて、結局たんなる理想論でしょ?」と考えている人にこそ読んでもらいたい。
- (6) 推薦者：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

- (1) イマヌエル・カント(2006)『永遠平和のために／啓蒙とは何か 他3編』(訳) 中山元、光文社古典新訳文庫、ISBN:9784334751081
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード：平和、歴史、啓蒙
- (4) 難易度2
- (5) わかりやすさにこだわった「永遠平和のために」の翻訳が収録されている。先にあげた宇都宮訳と比較してみるのもよい。「自分で考える勇気を持って!」と読者を鼓舞する「啓蒙とは何か」も、大学生になった皆さんにぜひ是非読んでもらいたい作品。
- (6) 推薦者：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

- (1) 松元雅和(2013)『平和主義とは何か』、中公新書、ISBN:9784121022073
- (2) 学問領域：政治学、哲学・倫理学・論理学
- (3) キーワード：戦争、平和、平和主義、正戦論、軍事的介入
- (4) 難易度：2
- (5) 「愛する人が襲われても無抵抗でよいのか」「正しい戦争もあるのではないか」等、平和主義に向けられる批判に丁寧に組みながら、「説得力のある平和主義」の姿を探る論考。読み終わった時、平和主義のイメージがかなり変わるのではないかと。
- (6) 推薦者：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

- (1) 小谷英生 (2024) 『カントの「嘘論文」を読む なぜ嘘をついてはならないのか』白澤社、ISBN : 9784768480014
- (2) 学問領域：哲学・倫理学、政治学
- (3) キーワード：カント、嘘、道徳的政治
- (4) 難易度：2
- (5) 「友達を守るための嘘ならついていい？」－これに対してカントは、嘘は例外なく禁止されるべきだと答える。どうしてそんなに厳格な立場をとる必要があるのだろうか？この本を読めば、カントがこだわる理由も分かり、思考の幅が広がるはず。前半にある嘘についての哲学的分析も面白い。
- (6) 推薦者：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

- (1) ジョセフ・ヒース (2022) 『啓蒙思想 2.0 [新版]』（訳）栗原百代、早川書房、ISBN: 9784150505875
- (2) 学問領域：哲学・倫理学、認知科学、政治学
- (3) キーワード：啓蒙主義、理性と感情、クルージ、スロー・ポリティクス
- (4) 難易度：3
- (5) 理性よりも感情に訴える政治手法や広告が幅を利かせる現代。そんな現状の分析を踏まえ、理性に基づく思考の意義をクリアーに解く好著。認知科学の実験を頼りにした論の展開も面白い。
- (6) 推薦者：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

- (1) チャールズ・ディケンズ (1991) 『クリスマス・キャロル』、(訳) 中川敏、集英社文庫、ISBN : 9784087520170
- (2) 学問領域：文学
- (3) キーワード：19世紀イギリス、キリスト教文化、社会問題、教育
- (4) 難易度：2
- (5) クリスマス・イヴの一晩で守銭奴の金貸しが改心するまでを描く、19世紀イギリスを代表する文豪の作品。小説家ディケンズの魅力だけでなく、資本主義やクリスマスなど現代につながるテーマ性も十分。
- (6) 推薦者：杉田貴瑞（教育学部）

- (1) 新井潤美 (2016) 『魅惑のヴィクトリア朝：アリスとホームズの英国文化』、NHK 出版新書、ISBN : 9784140884942
- (2) 学問領域：文学、文化研究
- (3) キーワード：19世紀イギリス、文化研究、社会問題、歴史
- (4) 難易度：1
- (5) 「イギリス」と言われて何を思い浮かべるだろうか？現代イギリスの基礎の大半は19世紀に生まれたと言っても過言ではない。その文化についてシャーロック・ホームズシリーズなどの有名な文学作品を切り口に解説した一冊。
- (6) 推薦者：杉田貴瑞（教育学部）

- (1) 坪内逍遙 (2010) 『小説神髓』、岩波文庫、ISBN : 9784003100417
- (2) 学問領域 : 文学、国際日本学、近代日本文化
- (3) キーワード : 明治日本文学、近代ヨーロッパ受容
- (4) 難易度 : 3
- (5) 海外の文化を取り入れて、自国の文化を発展させる。21 世紀の現代では自明のことのようかと思えるかもしれないが、実は明治のころからそのような試みは行われていた。「日本独自の小説を作り上げるには何をすべきか」という大きすぎる問題を大真面目に解説した実験作。
- (6) 推薦者 : 杉田貴瑞 (教育学部)

- (1) 湯澤規子 (2018) 『胃袋の近代 : 食と人びとの日常史』、名古屋大学出版会、ISBN9784815809164
- (2) 学問領域 : 経済史、社会史
- (3) キーワード : 近代化、労働者、都市、日常生活
- (4) 難易度 : 1
- (5) 日本の「近代」とはどのような時代であったのだろうか。「日々食べる」という営みを史実にもとづいて検討することで、人びとの体温と体臭が感じられる「日常史」が描き出される。
- (6) 推薦者 : 水野敦洋 (経済学部)

- (1) 武田晴人 (2008) 『日本人の経済観念 : 歴史に見る異端と普遍』、岩波現代文庫、ISBN9784006031749
- (2) 学問領域 : 経済史、経営史
- (3) キーワード : 企業観、市場観、労働観
- (4) 難易度 : 2
- (5) 第二次世界大戦後の日本経済は、しばしば欧米型の市場経済とは異質で、独特の性格を持っていると指摘される。しかし、それは本当なのだろうか。本書では経済史の視点から、日本人の経済観念について、その形成過程が検討される。
- (6) 推薦者 : 水野敦洋 (経済学部)

- (1) 石井寛治 (2012) 『日本の産業革命 : 日清・日露戦争から考える』、講談社学術文庫、ISBN9784062921473
- (2) 学問領域 : 経済史、産業史、近代日本史
- (3) キーワード : 産業革命、日清戦争、日露戦争
- (4) 難易度 : 2
- (5) 黒船来航を契機として、日本は明治維新という政治的変革、そして「近代化」の歩みを開始した。本書では日本の「産業革命」について、経済史の視点に立ちつつ、日本社会全体の動向と関連づけながら描き出される。
- (6) 推薦者 : 水野敦洋 (経済学部)

- (1) 宮崎正勝 (1997) 『鄭和 (ていわ) の南海大遠征 : 永楽帝の世界秩序再編』中央公論社 (中公新書 1371)、ISBN : 978-4121013712
- (2) 学問領域 : 歴史学、社会学
- (3) キーワード : 中華帝国、中華秩序、永楽帝、鄭和
- (4) 難易度 : 1
- (5) 近代におけるアジア秩序の再編の前史として読んでもらいたい一冊である。世界史の教科書にも出てくる鄭和の南海遠征、その背景には明王朝・永楽帝による中華秩序・朝貢システムの再編があった。永楽帝は多くの宦官を派遣し大交易を展開させ、中華帝国を中心とする秩序の形成を強力に押し進めた。本書は硬い歴史本というより、時代の大転換期に生きた、辛酸をなめつくした鄭和というひとりの人生を描いたものであり、読みやすい書物である。
- (6) 推薦者 : 張曉紅 (経済学部)

- (1) 金谷治 (1997) 『中国思想を考える—未来を開く伝統』中公新書、ISBN : 9784121011206
- (2) 学問領域 : 哲学
- (3) キーワード : 中国思想、中国哲学
- (4) 難易度 : 2
- (5) 西洋の物差しでは中国人の行動をまるで理解できない。なぜなのか。西洋哲学や近代的な価値観が近代以降において、世界規模で共有されるようになってきたが、中国人の人生哲学には古代から代々引き継がれた「中国思想」が依然として深く影響を及ぼしているからである。「現実の尊重」、「儒家的合理主義」、「对待 (たいたい)」、「中庸」などの思考法はその代表である。本書は、中国哲学を専門とする日本の東洋学者・金谷治が、自らの考えで中国思想の特色とみられるものを取り上げて、それを説明しながら、現代の立場からの吟味を加えたものであり、現代の中国人の発想法を理解するために有益な書物である。整った思想概説という性質ではないため、読みやすい。
- (6) 推薦者 : 張曉紅 (経済学部)

- (1) 浜下武志 (2013) 『朝貢システムと近代アジア』岩波書店 (岩波オンデマンドブックス)、ISBN : 978-4007300608
- (2) 学問領域 : 歴史学、社会学
- (3) キーワード : 朝貢システム、西洋の衝撃、地域秩序
- (4) 難易度 : 3
- (5) 本書の主な論点は、近代のアジア地域にみられる国際秩序の変容は外因によるものか内因によるものか、についてである。西洋の衝撃によって開始されたとするアジアの近代化論は一般的であったが、本書はこの見方に対して批判的である。著者によれば、近代以前の清王朝を中心とする朝貢システムが、西洋の衝撃の以前の時期からすでにその内部では中心と周縁との相互交替が進行した。本書は、近代に表面化したアジア地域の秩序の変化を多面的に理解するための重要な視角を提供してくれる。学術書のため、理解するために精読が必要であるが、各章で展開された緻密な実証はおもしろく、高い満足度を得られる作品である。
- (6) 推薦者 : 張曉紅 (経済学部)

- (1) ガンディー, M. K. (2001) 『真の独立への道 (ヒンドゥ・スワラージ)』岩波書店、ISBN 9784003326121
- (2) 学問領域：哲学、歴史学、政治学、経済学、法学
- (3) キーワード：ガンディー、インド、イギリス、植民地、近代文明
- (4) 難易度：1
- (5) ガンディーによる主著の一つで、1910年出版である。その中で彼は、近代文明の中に精神性の軽視と物質主義をみており、イギリスを批判するのではなく、植民地時代に「カンパニー〔東インド会社〕の人たちの銀」に魅了されたインド人をも批判する。
- (6) 推薦者：石井一也（法学部）

- (1) 竹中千春 (2018) 『ガンディー—平和を紡ぐ人』岩波書店、ISBN :9784004316992
- (2) 学問領域：哲学、歴史学、政治学、経済学、法学
- (3) キーワード：ガンディー、カストゥルバ、ハリラル、ゴードセー
- (4) 難易度：2
- (5) ガンディーについての近著の一つで、ジェンダーおよび国際政治の研究者によるものである。ガンディーの人生に沿って、かかわりのあった人物が描かれるが、とりわけ妻、長男、そしてガンディーを暗殺した犯人についての記述が特徴的である。
- (6) 推薦者：石井一也（法学部）

- (1) 石井一也 (2014) 『身の丈の経済論—ガンディー思想とその系譜』法政大学出版局 ISBN :9784588603358
- (2) 学問領域：哲学、歴史学、政治学、経済学、法学
- (3) キーワード：ガンディー、身の丈の経済、コンヴィヴィアリティ、近代主義、チャルカー（手紡ぎ車）
- (4) 難易度：3
- (5) ガンディーの経済思想を、西洋の経済学やマルクス主義との対比において論じ、その近代文明批判および「ポスト近代」を目指す思考および実践を説明したものである。ガンディー以後の思想的系譜を辿り、21世紀における彼の思想の意義を考えている。
- (6) 推薦者：石井一也（法学部）